



つくる
PROJECT



クリエイター部がやるべきこと
私たちは、デザインやブランディング・商品開発などの技術を持った専門家です。具体的な職業は、デザイナーやカメラマン、ライター、イラストレーター、プランナーなど。生産者の想いや地元の商品、価値ある情報を伝えるための、効果的な方法を考え、チラシや商品ステッカーなどのツールや広報プラン作りまでつなげます。わかりやすく、確かな方法で、商品の魅力や地域の良さを、市内から周辺地域、さらに全国へと伝えることが、私たちクリエイター部の役割だと考えています。

特集
デザインは伝えたい想いや考えを「カタチ」にできる
「クリエイター部」は、木津川市農政課の農プロプロジェクトの一環として、2016年に発足しました。目的は、地産地消をクリエイティブな方面からサポートしていくこと。部員は、木津川市に住んでいるクリエイターが中心です。クリエイター部には、部員たちが共有している理念があります。それは「デザインは伝えたい、想いや考えを「カタチ」にできる」ということ。この理念を、多くの方に実感してもらうため、私たちはさまざまな活動に取り組んできました（紹介は中面）。活動をはじめ4年、多様なカタチで、生産者や事業者の方々の想いや考えを発信する中で、私たち自身に地産地消がより身近な存在となり、また、市民の方々の地産地消への関心の高まりにも、確かな手ごたえを感じています。
今、私たちは次のStepへコマを進めます。「食」をキーワードに、木津川市の魅力を、より広く伝えたい。この土地で生み育まれたモノや活動を、市民の目線で見直し、一人でも多くの人の暮らしを豊かにするために活かしたい。そのためクリエイター部は、人と人の出会いや繋がりを生む土台プラットフォームを作ります。それが、この「jiwa jiwa」。新刊したフリーマガジンを「伝えたい想いや考えをカタチにする」ためのコミュニケーションの足場とし、地域社会と市民の暮らしを豊かにしていきたいと考えています。

「ジワジワ」とは
食、暮らし、文化、自然。すべてを包み込む地(ジ)元の輪(ワ)を、ジワっと大きく、ジワっと豊かに。地域のつながりをゆっくりに深めるフリーマガジンです。

問合せ
木津川市農で頑張る協議会
事務局：木津川市マチオモイ部農政課
電話：0774-75-1220
2019年12月1日発行 第1号
発行：木津川クリエイター部
編集室：情報発信基地キチキチ内
編集デザイン：木津川クリエイター部
Editor：松田 祥宏
Designer：上西 由香・すみかずき
Illustration：福田 藍
Writer：松田 祥宏・山川 郁子・加藤 史江
Photographer：岩井 由美



jiwa jiwa



jiwa jiwa



みのり
PROJECT

農(みのり)プロジェクトとは…
木津川市の「おいしい」をもっと身近に地産地消の推進を通して、地域の魅力を高める取り組みです。
【問合せ】木津川市農で頑張る協議会
事務局：木津川市マチオモイ部農政課
電話：0774-75-1220

ほっこり あったか 大根で冬ごはん



鎌田 武志 (かまた たけし) さん
「梅谷大根は、まっすぐな形で、味も素直。みずみずしくて芯までやわらかいので、どんな料理にでもあうと思います。僕自身は、大根を入れた豚汁が一番好きです。大根そのものの旨みや味は、それほどはっきり感じられるものではないですが、主張し過ぎない特有の風味や香りが出汁に溶け出すような気がします。大根は、保存していても品質が落ちにくいと言われてます。冷蔵庫でしばらくたってしまっても、少しくしゃくしゃしてきても心配しないでください。水分が抜けて、味浸みが良くなり、煮物にすると美味しく食べられますよ」

「“自分”を主張しないのが、梅谷大根の良さかな(笑)」

12月、冬を迎えた大根畑は、青々とした葉で覆われていました。土の上に出た葉の根元と、地面の間にのぞいた身は、真っ白でしっかりとした太さ。旬を迎えた大根で、大根づくしの食卓を囲んでみませんか？(レシピ紹介は中面)



丸ごとたっぷり味わいましょう！
冬野菜の主役として、市内各地域で生産されている大根。なかでも梅谷地区は、大根の生産地として知られています。
「梅谷の畑では、大根がよく育ちます。他の野菜も栽培しましたが、成長や収量の差ははっきりしています」と話す農家さん。秘密は、梅谷の砂地の土壌。栄養分に偏りがなく、水はけが良いせい、大きくて、味のよい大根が育つと言われています。
おでんや鍋物などの冬の定番料理はもちろん、サラダや洋風料理にもアレンジできる、対応力の広さが大根の魅力。市内産の新鮮なものは、葉っぱまで美味しくいただけます。低カロリーで、消化を助けるという大根を、

